

令和2年度 東北歴史博物館中長期目標達成自己評価（3月末日現在）

【評価基準 4：十分達成されている 3：ほぼ達成されている 2：やや不十分である 1：不十分である】

◎：中長期重点目標 ○：令和2年度重点目標

1 常設展示・企画展示

○ 常設展示では、来館者の意見をもとに、最新の調査成果や分かり易さを重視した資料等の入替えや、案内パネルの変更、誘導・解説パネルの新規設置等により展示の充実を図った。
 ○ 特別展示では、特別展3本を開催（1本は会期短縮）したが、新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、観覧者数は目標を大幅に下回った。しかし、展示室内の三密を回避する取り組みを行い、来館者が安心してじっくり観覧できる環境を整えた上で、資料の充実や関連企画の実施に取り組んだ結果、観覧者の満足度は高く、「GIGA・MANGA」展では家族連れを中心とした若い世代の集客面で大きな成果を上げた。また、次年度は幅広い世代の利用者が見込まれる大型巡回展「ジュラシック・大恐竜」の誘致に成功しており、今後も県民の学習ニーズに応える企画の継続が重要であることから、引き続き大型巡回展などの誘致に努めていく。
 ○ 総合展示室のリニューアルについては、先行事例の情報収集に取り組みその方向性等の検討を進めているが、全体のスキームやスケジュール、さらには事業推進体制や意思決定のプロセスなどを改めて確認・共有する必要がある。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 何度も訪れなくなる常設展示を目指します。	①	◎	総合展示室のリニューアルを目指し、基本的な構想を策定します。	【企画部企画班・学芸部学芸班】 ○ 本年度は、神戸市立博物館・旭川市立博物館・国立アイヌ民族博物館などの調査を実施してデータの蓄積を図った。各調査では、リニューアルの方向性や、新たなテーマと視点、プロセスなどについて情報を収集し、これらを参考に、総合展示リニューアルの柱となり得るテーマの検討・協議を進めた。	2	新型コロナウイルス感染症の感染拡大により活動が制限される中、先行事例の情報収集を進めているものの、収集した情報や総合展示室のリニューアルに向けた、具体的な検討過程が十分に共有されていない。
	②	○	常設展示の充実を図ります。	【企画部企画班】 ○ 総合展示室では、ニーズ把握のためのアンケート調査を企画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できなかった。しかし、来館者の意見をもとに、各時代担当で展示内容及び資料の再検討を継続的に実施しており、これを集約したうえで、本年度は旧石器時代、弥生時代及び古代について考古資料等の調整（入替えや資料数調整、レイアウト変更など）を12月のメンテナンス期間に実施し、展示内容の充実を図った。 ○ テーマ展示室では、新資料の活用及び構成刷新等により展示内容の充実を図った。また、展示室への案内掲示の改良や、SNSを活用した展示資料紹介なども積極的に行った。具体的には、新企画として「鍛冶沢遺跡―蔵王東麓の再葬墓―」展（7/7～11/29・考古）、「多賀城の高級食器―緑釉・灰釉・青磁・白磁―」展（1/5～・考古）、「モダンデザインの源流」展（1/5～・考古）、再構成や新資料の活用として「郷土玩具の世界―篠田コレクション・江戸独楽―」展（9/29～11/29・民俗）、「仙台の近世絵画―東洋の屏風」展（9/1～10/11・美術）、外部資料を活用した企画として「仙台藩の工芸―刀剣と甲冑―」展（5/19～7/12・歴史）などを開催した。 ○ 映像展示室では、東北地方の祭や民俗芸能などの記録映像を上映し、無形文化財への関心と理解を深めることができた。 ○ 今野家住宅では、コロナ禍でボランティアが活動できない状態が続いたが、解説パネルの設置、観覧ルートの設定などの代替策を講じて、展示への関心と理解を深めることができた。	3	総合展示室では、最新の調査成果や分かり易さを重視して資料の入替え・追加を行い、展示ストーリーの理解を促すレイアウト変更も実施している。テーマ展示室では新企画の取組み、映像展示室では案内パネルの変更、今野家住宅では誘導・解説パネル等の新規設置によって展示の充実に取り組んでいる。
(2) 利用者の要望をとらえ、時宜を得た魅力的な特別展示を目指します。	③	◎	魅力的な展示を実施します。	【企画部企画班】 ○ 本年度開催した自主企画の特別展は2本で、観覧者数は「みやぎの復興と発掘調査」展が1,528人、「伝わるかたち／伝えるわざ―伝達と変容の日本建築」展が3,982人であった。いずれも新型コロナウイルス感染症の影響が甚大で、観覧者数は目標を大きく下回った。 なお、「みやぎの復興と発掘調査」展は新型コロナウイルス感染症の影響による休館で公開期間が予定のほぼ半分となり、展示解説を含めた関連企画、アンケート等も全て中止した。 ○ 各特別展では、展示資料やパネル等の数量・配置・間隔などに配慮して三密を回避する取り組みを行い、来館者が安心してじっくり観覧できる環境を整えた。 ○ 「伝わるかたち／伝えるわざ」展では、より魅力的な展示を目指して出陳する資料の充実や関連企画開催などに取り組んだ。具体的には、「国立博物館 収蔵品貸与促進事業」を活用することで法隆寺五重塔模型や増上寺本堂図など貴重な資料の出陳にこぎ着け、展覧会自体の理解を深め、集客に繋がる「起し絵図」や「木組み」のワークショップを開催した。その結果、観覧者アンケートでは、高い満足度が得られた。また、アンケートの動向をみながら図解パネル追加等の対応も行った。	3	新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、特別展の観覧者総数では目標を大きく下回ったが、展示室内の三密を回避する取り組みを行い、来館者が安心してじっくり観覧できる環境を整えた。また、「伝わるかたち／伝えるわざ」展では、「国立博物館収蔵品貸与促進事業」を活用することで資料の充実を図り、展示の理解を深める関連企画開催にも取り組んだことで、観覧者の満足度は高かった。
	④		外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い利用者の来館を推進します。	【企画部企画班】 ○ 本年度開催した巡回展「GIGA・MANGA 江戸戯画から近代漫画へ」（毎日新聞企画、河北新報社・東北放送共同主催）の観覧者数は12,899人であった。新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、集客面では苦戦したが、関連企画を含めて観覧者の満足度は高く、SNSで話題になったり、情報が拡散する状況もみられた。また、家族連れを中心に20～40代の観覧者が目立ち、若い世代の来館に繋がったことの結果は大きい。 ○ マスコミ・プロモーター提案あるいは共同企画による大型巡回展等の誘致を継続して積極的に行っている。来年度は、春季に河北新報社、仙台放送とのタイアップによる北欧デザインに関心が高い若い世代をメインターゲットとした「デンマーク・デザイン」展、夏季に河北新報社、東日報放送とのタイアップによる子ども達を中心に家族連れをメインターゲットとした「ジュラシック・大恐竜」展を開催する予定である。それ以降の大規模展覧会の誘致・開催についても、多面的な動きかけを継続して行っていくこととしている。	4	新型コロナウイルス感染症対策を講じながら巡回展を開催・運営し、幅広い世代に魅力ある作品を紹介した。「GIGA・MANGA」展では家族連れを中心とした若い世代の集客面で大きな成果を上げ、次年度の大型巡回展「ジュラシック・大恐竜」でも子ども達を中心とした若い世代の集客が期待できるなど、幅広い利用者の拡大に繋がっている。

2 教育普及

- 教育普及事業では、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた運営に取り組み、可能な限り各種講座・教室や体験イベント等を開催し、新たなプログラムの導入等により参加者の満足度は高かった。
- 学校との連携面では、新型コロナウイルス感染症の影響により利用促進を図ることが難しい状況にあったが、対策を講じた学校団体向けの館内利用方法を提案するなど更なる連携と館活用促進を目指し、プログラム構成の再検討やコロナ禍における運営体制の見直し等を進められた。
- 今後の教育普及事業については、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら事業の改善について様々な視点から議論を進め、事業の効果的かつ効率的な運営を行った。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 多様で親しみやすく、参加しやすくなる教育普及事業を目指します。	⑤	◎	各種講座・教室や体験イベントの開催に際し、利用者のニーズや興味関心をつかみながら、質的向上を図り実施します。	<p>【企画部企画班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 前年度教育普及事業（各種講座・教室・体験イベント等）の総括をもとに課題に取り組みかたちで本年度事業を実施した。 ○ 個別の事業では、まず新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた運営に取り組んだ（参加人数の制限や事前予約制の実施等を含む。）。その上で、来場者の動向やアンケート結果などを注視し、ニーズの把握と事業改善に努め、新たなプログラムの導入やプログラム内容の質的向上を図った。以下に個別事業の概要を記載し、新たなプログラムには【A】、プログラムの質的向上を図ったものには【B】の記号を付す。 <p>【講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 館長講座は「明治維新と宮城の芸能」をテーマに全8回。参加者は340名。【B】 ・ 歴史分野の学芸員が担当する史料講読講座（全3回）の参加者数は161名、古文書講座入門編（全3回）は149名、古文書講座中級編（全4回）は173名の参加があった。【B】 ・ 考古分野の学芸員が担当する新設の考古学講座（全2回）の参加者数は24名。【A】 ・ 民俗分野の学芸員が担当する民俗芸能講座（全3回）の参加者は112名。【B】 ・ 学芸員の調査研究成果を発表するれきはく講座（全7回）の参加者は841名。【B】 <p>【体験教室】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 夏の体験教室では、親しみやすく参加しやすくなるような教室の展開を目指し「木簡で、おくれたー!？」・「災い飛んでいけ!」・「ガトーカワラを作ろう!」・「昔の絵の具を作ってみよう!」を実施した（計4回）。新企画を盛り込み、全体として満足度は高かった（計74名参加）。【A】・【B】 ・ 冬の体験教室は、「ミニ屏風を作ろう!」・「トンプ玉を作ろう!」・「冬のお仕事!ワラを使って作ってみよう!」・「篆刻にチャレンジしよう!」の計4回を1月に実施し、計69名の参加があった。季節を意識した新企画や人気の企画を盛り込み、好評であった。【A】・【B】 <p>【体験イベント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 年3回の開催を予定していたが、春はコロナ禍で中止。秋・冬は参加定員を設けて事前予約制で開催し、秋は登録者数278名、プログラム総参加者数751名、冬は登録者数204名、プログラム総参加者数629名であった。新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえでの運営であったが、秋は「日本の古墳」 ・ 「人形を流そう」・「吉祥結び」など、冬は「オリジナルの多賀城碑をつくろう!」・「今野家住宅で起し絵図をつくろう!」・「回れ!古代こま」・「博物館からの挑戦状!」・「のぞいてみよう!むかしの明かり」などの新企画を導入したことで、参加者の満足度は高かった。【A】・【B】 <p>【多賀城巡り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新型コロナウイルス感染症の影響によりハイキング形式の番外編（全3回）を中止し、本編も6回の開催となったが、復元工事が進む多賀城南門を中心に解説の充実を図った。参加者は計89名。【B】 <p>【民話事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今野家住宅を活用した利府民話の会と多賀城民話の会による「民話を聞く会」（全3回）はコロナ禍で中止。 ・ 小学生に民話語り手体験をしてもらう事業を新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで展開した。事前案内会にあたる「民話にふれよう」の参加者は31名、計4回で構成された体験プログラムの参加者は12名であった。このプログラム参加者がおぼえた民話を披露する最終回「民話を語ろう」の観覧者は62名であった。本事業は、文化庁「博物館を中核としたクラスター形成事業」の補助を得て実施した。【B】 	3	新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた運営に取り組み、可能な限り各種講座・教室や体験イベント等を開催した。開催にあたっては、これまでの来館者動向やアンケート結果などを反映した。また、新たなプログラムの導入及びプログラム内容の質的向上を図ったことで、参加者の満足度は高かった。
(2) 学校が博物館を効果的に活用できることを目指します。	⑥		学校利用に対する学習支援の充実を図ります。	<p>【企画部企画班・管理部情報サービス班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ こども歴史館では、小学校授業の社会科単元「昔のくらし」と連動するかたちで、少し昔の生活道具を触ったり体験したりできる期間限定の特設コーナーを、昨年度よりも充実させて運営する予定で準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。その後も取り組みを継続しており、総合展示室（雑貨屋）・今野家住宅とあわせて総合的に活用する新たなプログラムを「新しい生活様式」を踏まえて作成することとした。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響により学校団体との連携強化、学校団体の館内利用促進を図ることが難しい状況にある。実際に、本年度は「職場体験」・「体験授業」を実施できていない。このような状況下で、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた学校団体向けの館内利用方法を提案し、7月から団体の受け入れを再開した。学校団体の館内利用は徐々に増加しており、10月には多賀城市内中学校1校(169名)を対象とした地域学習の館内授業も実施した。 ○ 更なる連携と館活用の促進を図るため、団体利用の状況把握（アンケート結果も参考）や広報等の課題について企画班及び・情報サービス班内で協議し、新規企画を含めた総合活用プログラムの再検討や広報、運営体制の見直しを進めた。特に評価とニーズが高い探検カード・学習シートについて次年度から内容の充実を図り、これを中心に広報展開を試みることにした。 	3	新型コロナウイルス感染症対策を講じた学校団体向けの館内利用方法を提案し、7月から団体の受け入れを再開した結果、徐々に利用が増加している。更なる連携と館活用促進を目指し、ニーズの高い探検カード・学習シートの内容充実やコロナ禍における運営体制の見直しの検討を進めている。

3 調査・研究

○ 調査研究事業は、博物館活動の基盤という意識を館員で共有しながら、県民の文化向上を目指した事業を推進するよう努めた。また、調査研究の予算が逼迫する状況に鑑み、外部研究との連携や外部予算の獲得に努めた。さらに、調査研究事業は博物館活動や県民に対し、展示及び各種講座等をおしてその成果や情報が還元されてこそ事業として完結するものであることから、連携や資金獲得それ自体が「目的化」しないよう注意を払いながら事業を推進した。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 東北の歴史・文化等に関する調査・研究を推進し、その成果を積極的な公開・普及活動の基盤とします。	⑦		研究テーマや目的を明確化し、成果を積極的に公開します。	【学会部学芸班】 ○ 考古、民俗、歴史、美術工芸、建築、保存科学など研究分野ごとに調査研究・成果公開の内容と予定を明確にした事業計画（本年度計画及び複数年度計画）を年度当初に策定し、学会会議等で提示して館内でそれらの情報を共有した。今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため当初計画の修正を行いながら、いずれの分野も概ね計画通りに進捗した。さらに、必要に応じて随時、成果と課題に関する議論と総括を実施した。これらの成果は、研究紀要等の出版物、県民を対象とした「れきはく講座」等により公開するなど、本年度の博物館事業に反映された。また、次年度以降の調査研究にも活用・展開できるよう配慮しながら計画を進めた。 なお、主な成果だけでも研究紀要は7件の論文・報告を掲載し、展示は自主企画特別展「みやぎの復興と発掘調査」及び「伝わるかたち／伝えるわざ」など特別展2件、「郷土玩具の世界」などテーマ展示10件を実施し、各種講座は「れきはく講座」7件を実施した。この他にも随時、特別展解説など同種業務を実施しており、1人あたり2件以上の成果を公開した。	3	新型コロナウイルス感染症の影響により当初計画の修正を余儀なくされたが、修正後の調査研究・成果公開いずれも概ね順調に推移している。
	⑧		総合展示室リニューアルをはじめとする公開や教育普及、博物館運営等、博物館学的な研究をさらに推進します。	【学会部学芸班】 ○ 博物館学的な研究については事業計画を年度当初に策定し、その計画に基づき推進する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により外部研修の殆どが中止または次年度へ延期になったことから、当初の計画の修正を余儀なくされた。そのような中、博物館事業や運営の充実のため「公益財団法人日本博物館協会東北支部研修会・視察研修会」に職員を派遣することができ、これらの成果は学会会議などで報告・協議され、館内で情報が共有された。	3	開催された外部研修のうち参加可能な研修は唯一左記の研修であったが、当該研修に積極的に参加することにより目的を達成している。ただし、来年度は、リモートによる参加等、多様な受講のあり方について検討が必要である。
(2) 他の博物館・研究機関等との連携を深め、調査・研究活動の質の向上を目指します。	⑨	○	調査・研究予算確保のため、外部資金の導入を図ります。また、他の博物館や研究機関・団体と連携協力して行う事業を展開します。	【学会部学芸班】 ○ 調査研究事業に充当する外部資金として採択済の科学研究費1件（基盤C「被災物の活用のための劣化特性と保存法の解明」）を引き続き活用した。また、次年度以降の調査研究事業に充当する外部資金として、本年度は新たに保存科学分野から科学研究費1件の応募を行った。さらに、広く博物館活動全体に充当するため、「被災ミュージアム再興事業国庫補助金」を獲得し被災資料の保全などを実施したほか、宮城県地域文化遺産復興プロジェクト実行委員会が実施する国庫補助事業「しおがま・まつしま文化財めぐり活性化事業」及び「宮城県の無形文化遺産情報発信事業」の事業主体者として、その事業と予算を普及活動に留まらず文化財調査にも活用した。 ○ 外部機関との連携協力では、資料調査について秋田県及び岩手県などの近隣県、保存環境調査・構築の連携支援で宮城県、塩竈市及び大崎市など県内市町村を始めとする地方公共団体、保存環境調査・構築支援及び資料調査等の連携支援で名取市歴史民俗資料館、石巻市立博物館（仮称）及び国立民族学博物館などの県内外の博物館施設、東北大学、弘前大学及び中央大学や特定非営利活動法人栗駒山麓ジオパーク推進協議会など大学及び民間等と積極的に連携を図り、調査研究を推進した。それらの成果は、特別展等の展示事業や講座等の教育普及事業など多岐にわたる当館の博物館活動に活用され、県民へ還元された。さらに、次年度も他機関の研究への協力者として新たに2件の応募を既に行っており、これにより一層の研究の推進と連携協力を図っていく。また、博物館実習では19名の実習生を受け入れ、人材育成に貢献した。	3	外部資金は概ね計画とお通り確保できている。次年度以降も積極的に獲得に努め研究を推進するとともに、他機関との連携強化に努め、研究の推進や人材育成を図っていく。

4 資料の収集と保管・活用

○ 資料受納、収蔵品管理、収蔵環境管理、資料出納、情報公開など多岐にわたる業務を概ね適正に推進した。浮島収蔵庫の老朽化への対応、同収蔵庫資料整理やデータベース充実化への対応などについては今後の課題であるが、今年度はその準備作業の一環として、移動に向けた資料の選定及び資料群ごとの物量把握を進めた。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 東北の歴史・文化等に係わる資料を系統的に収集し、その積極的な活用を図ります。 また、収集した資料の特質に応じた適正な保存管理策を講じ、後世へ継承します。	⑩	○	研究分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います。	【学会部学芸班】 ○ 研究分野ごとに収集方針を立案し、それに従って情報収集や調査研究を進め、寄贈に至った資料について、資料取扱要項など所定の手続きを厳正に履行しながら受納した。今年度は、「伊藤瓦工場関連資料」1件163点、「日本近現代貨幣等資料」1件89点、「宮城県小学校地域学習資料」1件2点、「BCL（海外短波放送受信）関係資料等歴史資料」1件48点、「『東洋』落款鯉魚・昇竜図屏風」1件2点、「東仙台佐藤家資料」1件168点、「オーデオ家電関連製品等、昭和後半期生活文化資料」1件380点、「平成19年度受納「菊地武彦家資料」追加資料」1件4点について受納手続きが完了した。 ○ 令和元年度から資料収集に「美術品等取得基金」の利用が可能となったことから、今年度も購入候補資料を選定し購入を図ることとしていたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により資料調査など所定の事前準備を進めることができなかった。したがって、今年度は次年度以降の資料購入を円滑に推進するよう、感染症拡大の動向を注視しながら事前準備を進めた。 ○ 図書資料については、購入予算確保のため外部基金へ応募するとともに、寄贈による図書資料の充実のため対象資料の選定を進めた。	3	資料寄贈・寄託について、資料収集方針及び資料取扱要領等の方針に基づき、適切に進めている。また、図書資料については、寄贈を依頼する対象の選定を進めている。

4 資料の収集と保管・活用

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 東北の歴史・文化等に 係る資料を系統的に 収集し、その積極的 活用を図ります。 また、収集した資料 の特質に応じた適正な 保存管理策を講じ、後 世へ継承します。	⑪	◎	収蔵環境を整備し、より 安定的な資料保全を図り ます。	【学芸部学芸班】 ○ 本館及び浮島の両収蔵庫について、定期環境調査を毎月実施するとともに、7月と12月の2回に亘り全館全室を対象とした委託環境調査を行い、収蔵環境の維持・改善を進めた。さらに、12月に学芸職員による収蔵庫の定期清掃を実施したことにより、より良い収蔵環境を実現した。 ○ 経年劣化が甚大かつ保管容量が逼迫する浮島収蔵庫については、部分的な修繕を施すとともに、今後の収蔵庫のあり方、現在収蔵される資料と今後の収蔵予定資料の取り扱いなど、主管課と協議を進めた。また、現在浮島収蔵庫に収蔵される資料について、将来の収蔵場所の移動などを見据え、属性に応じた資料の選定及び資料群ごとの物量把握を進めた。	3	収蔵環境は概ね適切に維持されている。また、将来の移動に備えた選定及び物量把握も概ね順調に進展している。
	⑫		収蔵資料のデータベースをさらに充実させ、インターネット等を活用して収蔵資料の情報公開を推進します。また、実物資料及び写真資料、図書資料の貸出・閲覧・撮影等にも適切に対応します。	【学芸部学芸班】 ○ データベースの充実を目指して登録作業を精力的に推進した。今年度は画像資料等864点と図書資料等1,976点を新規登録しており、このうち図書資料については当館ホームページでの情報公開を行った。また、当館が所蔵するVHS等の二次資料約553点のデジタル化に取り組みるとともに、デジタル化と並行して～5分程度のダイジェスト映像11本を作成し公開した。併せて、仙台藩大肝煎吉田家文書などの資料目録の作成も進めた。 ○ 資料の利用については、実物資料の貸出が30件1,456点、画像等の貸出が70件171点を数え、多くの需要に応じて業務を適正かつ円滑に推進した。	3	事業は概ね計画どおりかつ円滑に進捗している。

5 情報の発信

<ul style="list-style-type: none"> ○ 広報活動については、催事テーマ等に応じて広報先や方法等を検討して効果的かつ効果的な情報発信を行った。特別展においては多賀城市や関係機関と連携・協力し、さまざまな広報活動を行い集客に努めた。 ○ ロゴマークを様々な媒体を使って紹介し、多くの人に認知してもらえるよう取り組んだ。 ○ ホームページとSNS（フェイスブック、ツイッター）を連動させてイベント等の広報を行い、幅広い客層への情報発信をすることができた。特別展やイベントを写真で紹介しライブ感を出すことで、お客様の“行ってみたい”を刺激して誘客につなげるよう取り組んだ。さらに、お客様が発信したツイートが拡散され話題となり、さらなる広報につながる効果も見られた。 ○ 他館との連携については、美術館や図書館との取組を継続したほか、新規に石ノ森萬画館との共催イベントや広報協力を行った。
--

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的に お知らせします。	⑬		わかりやすいアクセス情報を提供します。	【管理部情報サービス班】 ○ 特別展開催（年3回）の都度、案内看板を作成し、開催期間中博物館周辺の道路上に設置したほか、より見やすいものとなるように展示担当と協力しながら改善を進めた。 ○ 電柱広告の案内看板設置を継続（62カ所）するとともに、利用者がより認知しやすい位置への設置について、委託業者と調整し看板（1カ所）の設置位置変更を行った。	3	車で来館する観覧者のために、見やすい位置に案内表示を設置するなど、お客様が道に迷うことなく来館できるアクセス情報の提供に取り組んでいる。
	⑭	◎	多賀城市及び近隣市町との連携を強化します。	【管理部情報サービス班】 ○ 近隣市町との連携を図るため、多賀城市報に当館催事情報をもらい、毎月の催事情報を掲載している。他の近隣市町（仙台市、塩竈市、七ヶ浜町、利府町、松島町）にも当館の催事情報等の提供を定期的に行っている。また、特別展「G I G A・MANGA展」では、多賀城市民図書館に関連図書コーナーを設け、特別展開催期間中に図書館利用者に対して特別展の広報を行ったほか、特別展「伝わるかたち/伝えるわざ」では、追加広報として、近隣2市3町（多賀城市、塩竈市、七ヶ浜町、利府町、松島町）の教育委員会の協力のもと、各中学校の全生徒に向けてチラシを配布し誘客を図った。 ○ 来館者への近隣市町の情報提供としては、多賀城市主催の「アートワークイベント」に共催イベント開催の協力をしたほか、多賀城創建1300年紹介パネル展を当館エントランスで特別展「伝わるかたち/伝えるわざ」の開催期間中に実施し、地元歴史に対する理解を深め、多賀城南門建設への理解を高める企画を行った。	3	多賀城市との共催や後援の催事について、互いに協力・連携して事業運営にあたった。また、他の近隣市町にも催事情報等の広報を定期的に行いながら、関係部署との協力関係を保ち、連携した広報を継続している。
	⑮	○	館のロゴを制定し、館のシンボルとして活用します。	【管理部情報サービス班】 ○ 令和2年3月にロゴマークを決定後表彰式を延期していたが、6月6日にロゴマーク表彰式を開催し制作者に表彰状を授与した。 ○ 制定作業時に職員から提案されたロゴマーク活用案を参考にしながら、実践できるものから実施している。具体的な実践例は下記のとおり。 ・常設展示室前の壁に大きなロゴマークを掲示したり、館内の掲示物に必ずロゴマークを入れ来館者にPRした。 ・年報や特別展ポスターやチラシ、報道機関投げ込み資料などにロゴマークを入れ広報に活用した。 ・職員の名刺フォームを作成した。 ・ホームページのトップ画面やSNSで紹介し、多くの人にロゴマークを認知してもらうよう努めた。	3	ホームページや館内掲示物、ポスターやチラシなど様々な媒体を使いロゴマークの紹介に努めたことにより、ロゴマークが広く認知され、定着してきている。

5 情報の発信

活動方針	達成 目標 No	重点 目標 取組	後期達成目標	実 績	評価	推進委員会の意見
(1) 当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。	16	◎	来館者の増加につながるような実効力のある効果的な広報を展開します。	<p>【管理部情報サービス班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 特別展の広報としては、夏・秋の特別展のポスター・チラシ配布を、企画部と相談しながら内容に沿った配布先を検討し、配布箇所の厳選をする一方で、集客が見込める配布先には数を増やすなど、特別展の観覧が見込まれる客層を考慮しながら行ったほか、これまでに送付していない箇所へ送付し、新規客層への広報にも努めた。また、夏の特別展では、小学校高学年に向けたミニチラシ（割引券付）を県内すべての小学校4～6年生の児童へ配布し、その保護者を含めた若い年齢層の集客へつなげる努力をした。特別展や関連イベントの取材をテレビ局や新聞社、雑誌やフリーペーパー等に依頼し広報した。みやぎWI-FIや宮城県教育委員会のホームページトップ画面で特別展バナーを掲載した。 ○ 各種講座やイベントは、SNSへ定期的に情報を掲載し、より多くの人から認知されるよう努めた。また、体験イベントや民話イベントなどのチラシを近隣市町（多賀城市、塩竈市、利府町、七ヶ浜町、仙台市の一部）の小学校等に重点的に配布した。 ○ 教育普及に関する広報として、学校団体の受け入れに際して、引率の先生方と直接連絡を取りながら予約調整を進めながら情報提供を行った。具体的には、「施設の使用制限」や「当館の感染症対策」の状況をHPで随時更新し、情報の周知に加え、予約済みの団体に対し、臨時休館等のお知らせや再度予約の方法をFAXの一斉送信等で適時情報提供を行なった。観覧のモデルケースを作成し、利用団体が観覧スケジュールを組みやすいように配慮した情報提供を行うことにより、施設の利用が制限されている中でも、団体利用予約の対応がスムーズに行なうことができた。安心して見学することができたというアンケートでの記述が見られた。 ○ 館の広報としては、「東北文化の日」や「芸術銀河2020」に参加し、ガイドブック等で施設紹介やイベント紹介をしたり、宮城県教育旅行ガイドブックで施設紹介を行った。今年度は新規で、「S・style・Kappo」特別編集の「宮城を楽しむおでかけ＆宿」で施設紹介をしている。また、フリーペーパーの「ちかてつさんほ」や「みやぎイベントJOY」や「まなびのめ」などには、継続的に催事情報の掲載をしており、館の認知度を上げる取り組みを行った。 	3	来館者の増加につながる広報先の選定や広報手段を検討し、効果的に経済的な情報発信を行った。SNSを使った広報を連動させ、博物館の認知機会を拡大させて幅広い客層への広報を行ったことにより、若い世代の集客にもつながっている。特別展GIGA・MANGAでは、来館者のツイートが2万回以上もリツイートされ話題となり、予想を超える広報効果が見られた。
	17		他館と連携した広報を行うとともに、館内掲示物を充実させます。	<p>【管理部情報サービス班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 宮城県美術館と連携してホームページなどで催事情報などの広報を行い、あわせて特別展の相互割引を実施し、ポスター、チラシ、チケットに互いの特別展情報を記載し広報、誘客に努めた。 ○ 他館との連携としては、宮城県図書館と連携し、特別展「GIGA・MANGA展」の展示内容に関連のある書籍を紹介するコーナーを図書館に設けて、特別展の広報に努めた。また、新しい取り組みとして、特別展「GIGA・MANGA展」では、石ノ森萬画館の特別展「はじめの一步」と共催し、缶バッジイベントや相互割引を実施したり、萬画館オリジナルグッズを当館ショップで販売するよう調整し誘客に努めた。 ○ 館内掲示環境の整備として、中央ロビーにある掲示内容を展示担当者の協力を得て、見やすいものに変更した。また、夏季期間熱中症対策の一環として飲料許可の表示を作成し、来館者に周知した。催事や講演会等の際は、エントランスや講堂にその都度、案内看板やポスター等を作成し掲示した。昨年度に引き続き、館長講座の次回予告を毎回作成し、エントランスや講堂入口に掲示した。 ○ 新型コロナウイルス感染症の対策として、当館主催の催事は原則として事前申込制としたことから、エントランスにコーナーを設けて受付中の催事一覧を掲示し、来館者がその場で申し込みができるよう改善を図った。 	3	引き続き、美術館や図書館と相互に広報を行っていく。エントランスに催事案内のコーナーを設け、掲示物の充実を図った。また、その場で事前申し込みができるようにし、来館者の利便性を高めたことにより好評を得た。
(2) インターネットを通じて情報の速やかで効果的、魅力的な発信に努めます。	18	○	ホームページを充実します。	<p>【管理部情報サービス班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「トビックス」・「展示」・「催事」などは、写真や画像を多く使いわかりやすく説明することに心がけ、紹介したいイベント等を利用者がイメージしやすいページ作りにも努めた。 ○ トップページに週末のイベント情報枠を新たに設け、翌週のイベント情報を毎週更新して利用者への情報提供を継続して行った。また、SNS（ツイッターとフェイスブック）を活用し、特別展示室内を写真で随時紹介したり、開催日が重複するイベントの広報はSNSへの掲載日を調整しながら情報発信を行い、タイムリーな話題の提供に努めた。 ○ 新型コロナウイルス感染症の防止の取り組みや、施設の使用人数などの情報はトップページに大きく色を変えて表示し、利用者が必要な情報がすぐに見られる画面づくりに努めた。 	3	写真や画像を多く掲載し、見やすいページ作りを行うとともに、SNSを使って定期的にイベントの関連情報を発信し、タイムリーな話題を提供できたことで、特別展期間中などは特にホームページ閲覧数の増加に繋がっている。
	19		WEBや電子メールを活用し事業を促進します。	<p>【管理部情報サービス班】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 県教育委員会とみやぎFree-wifiのホームページに、3つの特別展の広告バナーを掲載し広報を行った。また、県広報課のフェイスブックで、秋季特別展と関連イベントの告知を2回、県メルマガで秋季特別展の告知を1回実施した。 ○ 全国にイベント情報を提供しているインターネットサービス（チラシミュージアム、イベントバンク、美術の窓、日本学術研究支援協会、LUCHTA、interior-joho.comなど）を利用し、特別展、催事情報を提供した。 ○ WEBや電子メールでの予約申し込みを継続実施した。団体予約は111件（全体の44%）、講座参加は690件（全体の27%）の申し込みを受け、受付後に速やかに確認メールまたはFAXを返信することで利用者の利便性を高めた。 ○ 令和2年5月14日からSNSの運用を本格的に開始し、特別展や催事に関する広報を継続的に行なった。週平均3回程度、特別展開催期間中は週4～5回程度更新し、情報発信に努めた。 	3	様々な電子広報媒体を活用し情報提供を行った。また、電子メールによる予約受付は、講座等の事前申込をする参加者の利便性を高めた結果、多くのお客様に利用されている。

6 県民参加

- 来館者からの要望を館内で共有し、対応が可能なものから順次取り組み、利用者の声が反映される博物館運営に努めた。
- 博物館友の会に対し、事務局として各種企画の立案や様々な支援を行った。自立に向けた体制整備のため、役員との意見交換や情報共有のための打ち合わせを行った。
- キャンパスメンバーズ制度により、加盟校の学生が個々に常設展示や特別展示の観覧料割引制度を利用したり、クラス単位などの団体の展示解説を申し込むなど効果的に活用された。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 利用者のニーズが博物館の運営に十分に反映されるよう努めます。	20	◎	来館者のニーズを把握し、そのニーズに対応します。	【管理部情報サービス班】 ○ 学校団体担当者の観覧後のアンケートからニーズを把握し、児童・生徒にとって学びやすい環境作りに努めた。具体的対応としては、当館作成の学習シートを学校側に事前に紹介し、その活用を促したり、児童・生徒が集中して見学できるよう、研修室等の使用調整を行い荷物等を置く場所をできる限り提供した。 ○ 夏季特別展では当館での記入式の観覧者アンケートは行わなかったが、共催の毎日新聞社のWebアンケート結果（回答者332人）を提供いただき、来館者のニーズ把握などの分析を行うとともに館内で共有した。今後の特別展運営や広報計画に生かしていく。 ○ 秋季特別展では館内での記入式の観覧者アンケートを実施し、回答結果の内容をまとめ企画・学芸部に伝え、特別展示室内の照明やキャプションなどの改善の意見を取り入れ、より良い展示になるよう努めた。 ○ 特別展アンケートの回収率を上げるため、回答者に次回特別展招待券のプレゼント（抽選）の特典付加を継続実施した。 ○ 新型コロナウイルス感染症に対応するため、新たなアンケートの一つとして、「みやぎ電子申請システム」を使ったWebアンケートを冬の体験イベント参加者に実施した。	3	アンケートの意見を取り入れながら、特別展の展示内容の改善や、学校団体の見学支援を行った。また、来館者の要望を共有し、対応が可能なものは速やかに改善を図った。
(2) 博物館への県民参加を、積極的に推進します。	21		館内ボランティア業務を円滑に運営します。	※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、取組が不能になったことから評価除外。		
	22		博物館友の会の活動に対し支援をしながら、自立した会の体制整備に向けて助言、提案をします。	【管理部情報サービス班】 ○ 研修旅行及び主催講座をはじめとする友の会の活動に、事務局として会の企画・運営や会誌（「友の会だより」）刊行・学術情報の提供等の支援・協力を行い、円滑な活動の推進に努めた。また、新年度の会員証作成は継続して博物館が行う予定である。 ○ 役員主導に移行した会計業務は、通帳の名義変更手続きに必要な書類を適時準備したり、友の会が「支払請求書」の様式を作成するにあたり助言するなどの支援を行い、滞りなく進めることができた。	3	各種企画の立案・運営・調整を支援した。今後も一層の質的向上と自立に向けて協力していく。
	23		大学等学校単位での利用を促進します。	【管理部情報サービス班】 ○ 加盟校へ新入生用のキャンパスメンバーの案内チラシや、特別展ごと（年3回）にポスターやチラシ、催事等の情報提供を行い、利用促進の広報を行った。 ○ 新規の勧誘としては、加盟校以外の団体予約で来館した大学等（専門学校デジタルアーツ仙台、東北芸術工科大学、専門学校日本デザイナーズ学院、宮城大学）の担当者に、制度を紹介し加入案内と資料の配布を行った。	3	加盟校への情報提供を随時行うとともに、来館した団体等へ資料を配布し新規加盟の勧誘を行った。

7 施設の整備・管理

- 開館後21年が経過し老朽化が進む施設設備について、施設設備整備検討委員会を適宜開催するとともに、検討結果を踏まえた計画的な整備が進められた。
- 昨年度更新された情報システムについて、安定した情報サービスの提供を図るため、システムの適切な運用を図るとともに、ツイッター、フェイスブックを活用し多角的な視点で情報発信を行うことができた。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 利用者が利用しやすい施設・設備環境に向けて検証と改善を行います。	24	◎	施設設備整備検討委員会での現状を再検証し、障害者や海外の方を含めた全ての来館者の安全と文化財の保全管理に配慮した施設設備を整備します。	【管理部管理班】 ○ 施設整備計画に基づき、以下の工事等を順次実施し、来館者の安全と文化財の保全管理が図られた。 ・照明設備改修工事（2、4階一般照明、2～4階非常照明） ・中央監視制御設備改修工事（R2～R3 2カ年工事） ・X線透視装置改修工事 ・浮島収蔵庫落下危険物撤去工事 ・本館外壁タイル・床改修工事 ・冷却塔改修工事 ・エレベーター改修工事（設計） ○ 新型コロナウイルス感染症対策として、消毒液やアクリルパネルの設置、不特定多数が触れる場所の消毒等を行った。 ○ 施設設備整備検討委員会を開催し、現状の把握と今後の改修方針について協議を行った。	3	施設設備整備検討委員会での検討結果を踏まえ作成した施設整備計画に基づき、改修工事等を実施することができた。今後も継続して計画的な施設設備の整備を進めていく。
	25		情報システムを更新します。	【管理部情報サービス班】 ○ SNS機能を効率的に活用するため、「東北歴史博物館SNS運用計画」に基づき、企画部、学芸部、管理部が分担して、当館の催事や活動について情報発信を積極的に行った。ツイッターのフォロワー数は262人、また、フェイスブックの閲覧数も徐々に増えてきている。 ○ 利用者への安定した情報サービスの提供を図るため、情報システム全体の運用支援業務を業者に委託し、毎月1回の定期点検を行いセキュリティの安全性を確認するとともに、必要なアップデートを随時行った。 ○ 次回更新期限は令和6年12月末の予定である。	3	ツイッター、フェイスブックを活用し多角的な視点で情報発信を行った。また、情報システムのセキュリティの安全性を確認し、安定したシステム運用を行うことができた。

7 施設の整備・管理

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(2) 災害時に博物館として、また県の施設として機能できるようにします。	26	○	災害時の施設利用・管理について取扱いを整備します。	【管理部管理班】 ○ 災害応急対策マニュアルに基づき総合防災訓練を実施した。 ○ 仙台保健福祉事務所との大規模災害時における施設提供についての協定に基づく、受け入れ備品の状況について確認した。また、施設貸し出し時についての打ち合わせを行った。 ○ 館内で非常災害時に必要となる備品等について見直しを行い、備品の購入計画を作成した。	3	災害時における来館者の安全確保と地域との連携を図るため、防災体制の確認・整備を進めた。

8 組織・人員

<ul style="list-style-type: none"> ○ 各各班業務について相互理解を図るとともに、イベント時や施設の維持管理における必要業務の共有化を図ることにより、各班間の調整や協力体制の確保が可能となり、職員一丸となって取り組むことができた。 ○ 今後とも効率的・効果的な業務運営ができる組織を目指すため、適正な人員配置と協力体制の確保に努めていく。
--

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 組織の効率的、効率的な事業運営が確保される体制を構築します。	27		部班の所管を検証し、必要な見直しを行います。	【管理部管理班】 ○ 部班の所管を検証し、適正な人数配置を行った。	3	今後も、博物館活動を様々な視点から管理運営していくため、十分な知識・経験を有する人員の配置と若手職員の育成に努めていく。
	28		効率的な事業運営が確保されるよう部班間の協力体制の調整を行います。	【管理部管理班】 ○ 各事業について、事業内容把握し事前の情報提供や現状報告など連絡調整を行うことで、効率的な事業運営が行われるように努めた。 ○ 行事については、必要人数に応じ、部班をまたいだ協力体制となるよう調整を行った。	3	今後も部班間の連携協力に重点を置きながら、さらに効率的な組織運営を図っていく。

9 東日本大震災対応

<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災への対応と復興は本県の最重要課題の一つであることを常に念頭に置き、概ね計画どおり業務の推進に当たった。また、目標達成に向けた取り組みで得られた実績や情報等を蓄積し、防災教育の場として今後の災害対応への備えにするとともに、特別展事業をとおして、災害対策等の重要性について啓蒙に努めた。

活動方針	達成目標No	重点目標取組	後期達成目標	実績	評価	推進委員会の意見
(1) 震災復興に貢献する博物館活動を積極的に展開します。なかでも県内の被災文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。	29		県立博物館として、県内の文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。併せて被災文化財の修復や保存に関わる技術的な研究を進めます。	【学芸部学芸班】 ○ 県立の博物館施設として、県内市町村が直面する保全活動を協働して推進した。特に、巨野町所在資料について、「被災ミュージアム再興事業国庫補助金」を獲得し、被災文化財についてクリーニング及び安定化処置などを継続して実施した。この他にも、石巻市、大崎市及び南三陸町などの保管施設について環境調査、管理支援及び資料の活用支援なども継続して実施した。また、今後の保全活動のあり方、情報共有及び支援体制についても検討を進めた。 ○ 震災復興発掘調査について、本年度も引き続き文化財課へ職員1名を派遣し、事業推進及び震災復興に積極的に協力した。 ○ 被災文化財の修復や保存について、1件の科学研究費（基盤C「被災物の活用のための劣化特性と保存法の解明」）を活用し、津波被害という未曾有の事例に対応する技術研究を進めた。	3	被災文化財及び復興発掘調査出土資料の保存処置等への支援、保管施設の適正な環境構築への支援等を概ね着実に円滑に実施している。また、震災復興発掘調査も事業主体者との連携のもと実施されている。さらに、被災文化財に対する技術研究については、年度末の成果公表に向け取組を進めている。
(2) 災害に関する調査・研究を進め、常設展示をはじめとする公開・普及事業での活用に取り組みます。	30	◎	災害と復興の歴史及び災害に関する資料の調査・研究を推進します。	【学芸部学芸班】 ○ 科学研究費（基盤C「被災物の活用のための劣化特性と保存法の解明」）を活用し、被災資料について、被災痕跡を残したまま調査研究・公開などに長期間安定的に利用する手法の開発を進めた。 なお、本年度が当該科学研究費の最終年度であったことから、年度末にその成果を公開するとともに、今後の展望などを総括した。	3	被災文化財に対する技術研究については、年度末の成果公表に向け取組を進めている。
	31	◎	復興祈念事業を展開し、震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助とします。また、防災教育の拠点として災害展示の公開を目指した整備を進めます。	【学芸部学芸班】 ○ 復興祈念事業として開催された特別展「みやぎの復興と発掘調査」について、展示構成などの基盤となる調査研究を円滑に推進した。新型コロナウイルス感染症対策としてアンケートは実施しなかったが、解説員の報告によれば比較的味な展示ではあるものの肯定的な意見が観覧者から多く寄せられたことから、展示の基盤となる調査研究の成果が受け入れられたと考える。これにより、地域の歴史を振り返り、地域に対する誇りを体感させること、県民の活力増進に寄与することなどが達成された。 ○ 防災教育の拠点として、当館は「子ども歴史館」のシアターにおいて「未来へのきずな—防災を学ぼう—」及び「コロナ・タネノスケと学ぼう—東北の災害の歴史」の2プログラムを公開し、県民全体はもとより、東日本大震災を経験していない児童生徒に対して防災の重要性を伝える役割を果たし好評を得ているところである。調査研究はこれらプログラムの正確性及び客観性を担保する役割を果たした。	3	復興祈念事業にかかる調査研究は、地域の歴史や誇りを県民に再認識させることが達成されている。また、防災教育にかかる調査研究は、プログラム利用者の興味関心や注意喚起の正確性を裏付ける役割を果たしている。

<p style="text-align: center;">総合評価</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「常設展示・企画展示」では、来館者の意見をもとに最新の調査成果や分かり易さを重視し資料の入替え等を行うとともに。今野家住宅では、コロナ禍でボランティアの活動ができない状況であったが、誘導・解説パネル等の新規設置により展示の充実を図った。企画展示では、新型コロナウイルス感染症の影響による休館に伴い、自主企画展「みやぎの復興と発掘調査」で会期が縮小されたことなどから、観覧者数が大きく目標を下回ったが、ワークショップの開催等により観覧者から好評を得た。巡回展「GIGA・MANGA 江戸戯画から近代漫画へ」では、関連企画を含めた観覧者の満足度は高く、家族連れを中心に20代から40代の観覧者が目立ち、若い世代の集客で成果が見られるなど幅広い利用者の拡大に繋がるとともに、次年度の大型巡回展の誘致も決定した。 ○ 総合展示室のリニューアルについては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により活動が制限される中、先行事例の情報収集を進めているが、収集した情報や具体的な検討過程が十分に共有されていない状況が見られることから、リニューアルの柱となり得るテーマの検討や協議をさらに推進する必要がある。 ○ 「教育普及」では、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じながら、各種講座・教室・イベントにおいてこれまでの動向やアンケート結果を反映した新たなプログラムの導入や質的向上を図ったことにより、参加者から高い満足度を得ることができた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、学校団体の館内利用促進が難しい状況下であったが、新型コロナウイルス感染症対策を十分に講じた館内利用方法を提案し、団体の受け入れを行った。今後、更なる学校団体との連携と館活用の促進を目指し、プログラム構成の再検討やコロナ禍における運営体制の見直しを推進する。 ○ 「調査・研究」では、コロナウイルス感染症の影響により、一部修正を行いながら各研究分野ごとに概ね年度当初の計画どおり事業が進み、成果は展示や各種講座等をおとして還元することができた。 ○ 「資料の収集と保管・活用」では、貴重な資料を収集して当館での保存・活用につなげるため、美術品等取得基金を活用した購入候補資料の選定等を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により資料調査等の事前準備が進められなかったことから、次年度における資料の円滑な購入に向けた事前準備を進めた。また、収蔵資料におけるデータベースの充実を図るため、登録作業を精力的に推進しホームページ上での情報公開を行った。 ○ 「情報の発信」では、市・町・民間広報誌・マスコミ取材等0予算での広報を活用するとともに、職員自ら足を運び事業への参加呼びかけを行った。また、ホームページとSNS（フェイスブック・ツイッター）を連動させてイベント等の広報を行い、幅広い客層への情報発信を行うとともに、当館の認知度を高めるため、様々な媒体を活用しロゴマークの紹介に努めた。 ○ 「施設の整備・管理」では、安心・安全・快適な博物館を目指して、施設設備整備検討委員会を開催し計画的な施設整備を行うとともに、利用者への安定した情報サービスの提供を図るため情報システムの適切な運用を行った。 ○ 「東日本大震災対応」では、外部資金を活用しながら市町村の支援を含めた文化財の保全活動、災害に関する調査・研究を推進するとともに、復興記念事業の開催に向けた調査研究を円滑に推進した。 	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>今年度の実績及び成果を踏まえ「ほぼ達成されている」と評価するが、今後も「み”たい博物館」を目指し、各達成目標の取組みを進めながら、館のさらなる利用促進につなげていく。</p>
--	---	--------------------------------------	--